

令和5年4月3日

## 令和5年度 府中市立府中第七中学校 学校経営計画

校長 荒川 徳子

### 〈本校の教育目標〉

- 自分で考える生徒
- 思いやりのある生徒
- 強い意志をもつ生徒

### 1 目指す学校

生徒が「府中七中の生徒でよかった」、保護者が「府中七中に通わせてよかった」地域の方が「府中七中は地域の誇りだ」、教職員が「府中七中で働けてよかった」と実感できる学校を目指す。

#### ◎目指す学校像

① 「学ぶ喜び」が実感できる学校

「わかった!」「できた!」「たのしい!」と生徒が感じ、生涯にわたって学び続けようという意欲にあふれる生徒を育てる。

② 「ふれあう喜び」が実感できる学校

生徒同士、生徒と教師、さらには保護者や地域の人たちとの人間関係を深め、多様性を認め合いながら心豊かな生徒を育てる。

③ 「生きる喜び」が実感できる学校

一人一人の生徒が認められ、活躍し、将来の夢や希望を持ち、よりよく生きる活力のある生徒を育てる。

#### ◎目指す生徒像

①進んで学習に取り組む生徒

②よく考える生徒

③人に優しく、それぞれの個性を認めることができる生

④さわやかな挨拶ができる生徒

⑤何事にも恐れずチャレンジし全力で取り組む生徒

⑥粘り強くあきらめずに取り組む生徒

#### ◎目指す教師像・・・教育のプロであるという意識をもて

「チーム七中」高めあえる教員集団

①人間性豊かで積極的な教師

②指導力のある教師

③生徒・保護者・地域の願いに寄り添える教師

④協調性のある教師

⑤自ら範となる教師

## 2 中期的目標と方策

「一人一人が主役 ～夢や希望を抱いて自信をもって卒業できる府中七中～」

①わかる喜び、できる喜び、学び続けることへの意欲を高めるために授業を工夫し、学力の向上を図る。

- ・個に応じた指導、補充指導などによる基礎的な知識・技能の習得
- ・少人数指導を活用した指導の充実
- ・ICT機器を有効活用した授業
- ・言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成
- ・小中で連携した学習規律の徹底と学習習慣の確立
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
- ・ユニバーサルデザインの視点に基づく指導内容や指導方法の工夫
- ・家庭学習の定着
- ・読書活動の推進
- ・教員の授業力向上（全教員研修を）

②様々な人とのふれあいを通して、自己肯定感を高め、思いやりのある生徒を育成する。

- ・さわやかな挨拶のできる生徒の育成
- ・居心地の良い学年、学級づくり（二者面談）
- ・人権教育・道徳教育の推進
- ・一人一人を大切にす指導の充実、ほめる教育
- ・いじめ〇を目指して、いじめを起こさせない環境づくり、早期発見、早期対応、事後サポート体制の徹底

③生きる喜びを感じ、夢や希望を抱いて自信をもって卒業できる生徒を育成する。

- ・生徒主体の学校行事や生徒会活動の充実と推進
- ・地域活動やボランティア活動の推進
- ・堂々と夢を語る生徒の育成
- ・キャリア教育の充実

## 3 今年度の取組目標

「笑顔で挨拶 笑顔でありがとう 笑顔で頑張る七中生」

(1) 教育活動の目標と方策

【学習指導】

- ①基礎・基本の徹底（朝学習）
- ②小学校と連携した学習規律の徹底と「学習のてびき」を活用した家庭学習の定着  
「学習マラソン」の活用
- ③「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ④主体的に学習しようとする学びに向かう力、思考力・判断力・表現力の育成
- ⑤授業における「ねらい」の明確化と「まとめ・振り返り」の時間の確保
- ⑥数学科、英語科における少人数指導による個に応じたきめ細やかな指導
- ⑦指導と評価と支援の一体化

- ⑧読書に親しむ態度の育成
- ⑨言語活動の充実（表現活動）
- ⑩ICT機器を積極的に有効活用した授業の充実

#### 【人権尊重・道徳】

人権尊重の理念を基礎とし、温かな人間関係づくりを進める。

- ①自他の生命を大切に作る心や、互いに認め合い、思いやる心の育成
- ②道徳教育推進教師を中心に全体計画に基づく道徳的实践及び指導の充実
- ③全教員による道徳の授業
- ④「考える道徳」「議論する道徳」への授業改善

#### 【生活指導】

- ①自己肯定感、自尊感情を高める活動の実施
- ②自ら考えて行動できる生徒の育成
- ③いじめを起こさせない環境づくり、早期発見、早期対応、事後サポート体制の確立
- ④学校不適應、不登校生徒への丁寧な対応
- ⑤心の健康の保持に係る教育の推進
- ⑥SNSトラブルの未然防止

#### 【進路指導】

- ①3年間を見通したキャリア教育の全体計画の整備と計画的かつ系統的な指導
- ②職場訪問、上級学校訪問、職業講話などを通し、人間関係形成能力、課題解決能力の育成
- ③地域人材の活用

#### 【特別活動】

- ①いじめを許さない心情や態度の育成及び好ましい人間関係づくりを重視した指導
- ②生徒会活動を通してリーダーの育成
- ③生徒会活動の充実を目指し、生徒の自治的な能力及び自らの集団の課題を主体的に解決しようとする態度の育成
- ④学級活動における意図的な話し合い活動の充実
- ⑤奉仕の精神や社会の一員としての自覚を持たせるための地域活動やボランティア活動の推進
- ⑥部活動指導を通して、生徒の資質・能力の伸長の支援

#### 【特別支援教育】

- ①教育環境のユニバーサルデザイン化の推進と全生徒にとって学びやすい教育環境の構築
- ②教育相談活動の充実
- ③学校生活支援シート及び個別指導計画の作成
- ④校内委員会の充実
- ⑤武蔵台特別支援学校との交流

#### 【保護者・地域・小学校との連携】

- ①ホームページ、各種便りなどによる積極的な情報発信
- ②コミュニティ・スクール協議会の充実

- ③教育活動の積極的な公開と評価の説明
- ④青少年対策第七地区委員会との連携
- ⑤小学校との円滑なつながりの実施

#### 【学校運営】

- ①副校長等公務改善事業の効果的活用の範囲拡大
- ②組織的な人材育成（若手教員の育成）
- ③校務改善による働き方改革の推進
- ④教職員の服務防止

#### 【その他】

- ①食物アレルギー生徒等への配慮の徹底

### (2) 重点目標と方策

#### 【学習指導】

##### 「わかった」「できた」「たのしい」が実感できる授業

- ①年度当初に徹底した授業規律の確立を図る。
- ②基礎・基本の確実な定着を図るため授業開始5分間の帯活動を実施する。
- ③「ねらい」を明示するとともに、1時間の見通しをもたせ、「まとめとふりかえり」の時間も確保する。（生徒アンケートの肯定的評価が90%以上）
- ④「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。
- ⑤「言語技術」を各教科で生かす。（生徒アンケートの肯定的評価が85%以上）
- ⑥数学科、英語科において習熟度別少人数授業を実施し、生徒の学習状況に応じた、きめ細やかな学習指導を行う。同様に他教科でも個に応じた指導を行う。（生徒アンケートの肯定的評価が90%以上）
- ⑦4月に「学習のてびき」を配布し、家庭学習の定着を図る。（生徒アンケートの肯定的評価が85%以上）
- ⑧毎日「学習マラソン」を記入させ、家庭学習の時間の確保を図る。
- ⑨評価基準と評価計画を4月中に作成し、配布するとともに、生徒への丁寧な説明を行う。（生徒アンケートの肯定的評価が85%以上）
- ⑩朝読書で、学年の発達段階に応じた選書が自らでき、読書に親しむ態度を育成する。
- ⑪朝学習で、自学自習の習慣をつけさせる。
- ⑫ICT機器の有効的な活用を行う。

#### 【道徳】

##### 「考える道徳」「議論する道徳」の実施

- ①「考える道徳」「議論する道徳」を取り入れた授業改善を図る。
- ②道徳科の全体計画、年間指導計画に基づき全教員で授業を行う。（2学期からローテーション）
- ③道徳教育推進教師を中心として、5月までに道徳授業地区公開講座の計画を立て、公開授業の協議会の工夫・改善を図り、学校・家庭・地域社会が一体となった道徳教育を推進する。

## 【生活指導】

### 一人一人を大切に生活指導

- ①生徒の自己肯定感、自尊感情を高める諸活動を意図的・計画的にたてる。(生徒アンケートで肯定的評価が85%以上)
- ②教職員が率先して、生徒に「おはよう」「こんにちは」「さようなら」の声掛けをし、気持ちの良い挨拶ができる生徒を育成する。(生徒アンケートで「気持ちの良い挨拶ができる」で90%以上)
- ③毎日一人一人に声掛けをするとともに、休み時間なども生徒の様子をよく観察するとともに、情報の共有を図る。
- ④「いじめ防止等対策基本方針」「いじめ防止等対策方針細目」に基づき、「いじめは許さない」という基本認識を徹底し、学校・家庭・地域・教育委員会と一体となり、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解決をする。(生徒アンケートで「いじめ発生」1%以下)
- ⑤学校不適應や不登校の生徒については、週一回の委員会で、対応策を立てる。また関係諸機関との連携も図る。サポートルームの有効活用。
- ⑥命を大切に教育の一環として、長期休業前後の相談体制を確立し、家庭・地域と連携した見守り体制を構築する。また、生徒に様々な困難やストレスへの対処方法を身に付ける、SOSの出し方、心の保持に係る教育を推進する。
- ⑦「SNS 東京ノート」の活用、関係諸機関と連携したセーフティ教室の実施を通して、SNSの正しい知識やモラルについて指導の徹底を行い、未然防止を図る。

## 【進路指導】

### 夢や希望をもてるキャリア教育

- ①3年間を見通したキャリア教育の系統的な指導を行う。
- ②ハローワークや地域の人材、高校の教員など、外部の教育力を年2回以上活用する計画を立て、実施する。
- ③ライフスキル教育の実施(3年生)

## 【特別活動】

### 一人一人が活躍できる場の設定

- ①学級活動における話し合い活動を意図的に設定する。
- ②健全なリーダーを意図的に育成する。
- ③生徒一人ひとりが意欲的に実践する生徒会活動の充実を目指し、生徒会が企画したボランティア活動や挨拶運動などに主体的に参加しようとする意欲を育てる。(生徒アンケートで「ボランティア活動の参加」が全体の85%以上)
- ④学校行事等を通して、生徒主体の体験的な活動を充実させ、生徒に主体的・実践的な態度、互いに協力する態度を育成し、自己を生かす能力や集団への所属間・連帯感を育む。
- ⑤部活動指導で、生徒の資質・能力の伸長を支援するとともに、顧問の教員、指導者が体罰や不適切な指導がなく、顧問と生徒、生徒同士の信頼関係を深める。部活動保護者会において、保護者に部活動の意義を説明し、顧問と協力し合う部活動にする。
- ⑥4月に生徒に地域活動やボランティア活動への参加説明と年間予定表を配布し、ボランティア活動の意義を理解させ、自主的に参加する生徒を育成する。

## 【特別支援教育】

### それぞれを認め合い、みんなで伸びる

- ①アセス（学校適応感）を年 2 回実施し、生徒の実態を把握するとともに、一人一人に応じた支援をする。
- ②特別支援委員会を週 1 回開催し、特別な支援を要する生徒の対応を検討し、方策を全教員に共通理解を図り対応する。
- ③教育環境のユニバーサルデザイン化を推進し、生徒が授業に取り組みやすく、学びやすいようにする。

## 【保護者・地域・小学校との連携】

### 支えられながら育つ七中

- ①スクール・コミュニティ協議会の充実を図り、地域の教育力を活用し、教育活動を充実させる。学校の自己点検及び自己評価を年 2 回行い、保護者・地域への説明責任・結果責任を果たす。
- ②青少年対策第 7 地区委員会と連携し、教職員と生徒がスポーツや文化活動、地域行事などに年 1 回以上積極的に参加する。
- ③教員間・児童生徒の交流や連携を図る。

## 【学校運営】

### 誇りがもてる七中

- ①適切かつ有効な予算執行を図る。
- ②教職員の服務事故が起きない職場環境づくりを行うとともに、学期に 1 回の服務事故防止研修を実施する。
- ③働き方改革を進める。

## 4 本校の教職員の心構え

### 「チーム七中」

- (1) 誰もが生徒の人格形成の完成を目指し、様々な工夫と取組を行う。
  - ①積極的に授業改善や指導法の工夫に取り組む。
  - ②積極的に学年・学級の活動、部活動、生徒会活動等に取り組む。
  - ③積極的に生徒とかかわる。
- (2) 誰もが生徒指導に積極的に関わり、協力し合う。(組織的な対応)
- (3) 誰もが学校運営を担っているという自覚をもち、職務に励む。
- (4) 誰もが職務を通して、教員相互が高めあう教師集団を築く。
- (5) 誰もが教育公務員としての自覚をもち、信用失墜につながる服務事故を起こさない。
- (6) 誰もが保護者や生徒の相談や苦情に、丁寧に耳を傾ける。(ピンチはチャンス)
- (7) 誰もが保護者や地域の方々との連携に積極的に関わる。(感謝の気持ち)
- (8) 誰もが人権感覚をもち、生徒や保護者との信頼関係を築く。